

## 外為マンスリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、  
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2012/11/01.

### 中国経済に左右されやすい

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	利下げ予想が優勢ではあるが 予想レンジ: 79.30 ~ 86.20 円	2-3
<u>NZドル/円</u>	➡	国内の震災復興需要と主要国の株価動向 予想レンジ: 63.20 ~ 67.20 円	4-5
<u>ランド/円</u>	➡	ストライキの影響を見定め 予想レンジ: 8.70 ~ 9.70 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



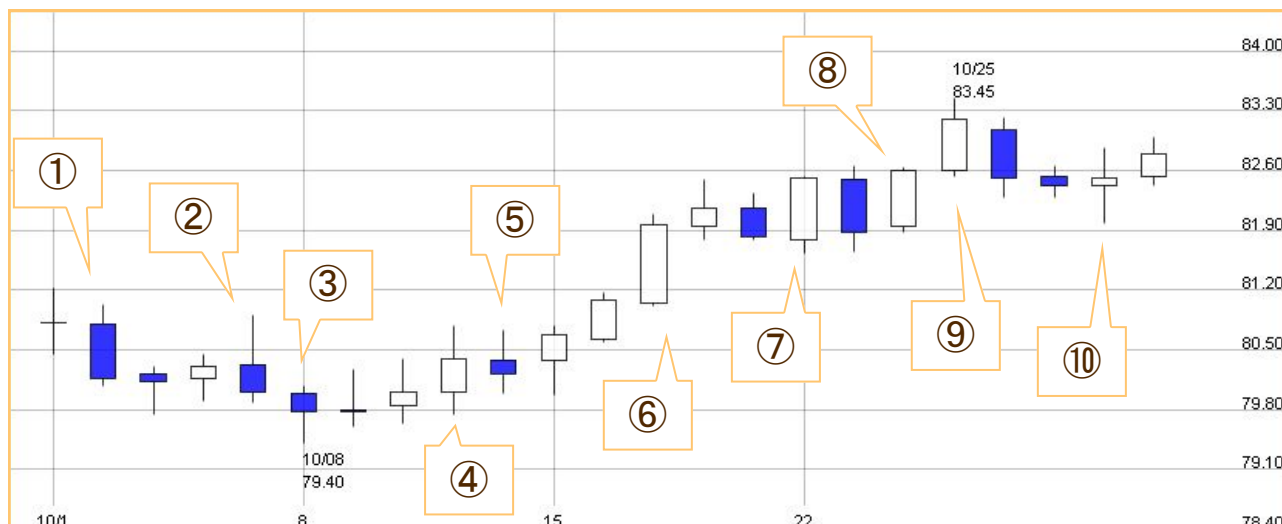
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

## AUD / JPY

## 豪ドル/円 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	80.81円	83.45円	79.40円	82.80円



- ① 2日、豪準備銀行(RBA)が0.25%利下げを発表し、声明文で「以前と比べ中国の成長に対する不透明感が強まっている」等、海外の景気減速に懸念を示した。予想外の利下げを受けて豪ドル/円は急落。
- ② 5日、米9月雇用統計を好感して時間外のNYダウ平均先物が上昇すると、豪ドル/円は一時81.51円まで上昇。しかしその後、NYダウ平均株価が5年ぶり高値を更新後に下げに転じ、原油相場も下落すると、豪ドル/円は79.88円まで反落した。
- ③ 8日、東京市場休場で取引参加者が少ない中、上海株が軟調に推移。更に、欧州株が下落した事も重なり、豪ドル/円は79.40円まで下落した。
- ④ 11日、豪9月失業率は5.4%と予想(5.3%)より弱い内容となったが、新規雇用者数が1.45万人増、労働参加率が65.2%といずれも予想(0.5万人増、65.0%)より強い内容が伝えられた事から、豪ドル/円は発表前の水準から40銭近く急騰。その後「ソフトバンクが米携帯大手スプリント・ネクステルの買収を検討」との一部報道をきっかけに円売りが強まると、80.79円まで一段高となった。
- ⑤ 12日、スティーブンスRBA総裁の「必要なら利下げの余地がある」との発言を嫌気して、豪ドル/円は下落。その後NYダウ平均株価が下落すると、79.99円まで一段安となった。
- ⑥ 17日、「日銀が2014年度の物価見通しを下方修正すると共に、追加金融緩和の検討に入る」との一部報道を受けて円売りが強まると、豪ドル/円は引けにかけて上昇した。
- ⑦ 22日、豪政府が経済・財政中間見通しを発表。2012/13年のGDP伸び率を3.0%(従来は3.25%)、財政黒字見通しを11億ドルの黒字(同15億ドルの黒字)へと下方修正したが、市場の反応は薄かった。
- ⑧ 24日、豪第3四半期消費者物価指数は前期比+1.4%、前年比+2.0%、RBA注目の基調インフレ率は前年比+2.5%と、いずれも事前予想(+1.0%、+1.6%、+2.2%)を上回った。その後発表された中国10月HSBCフラッシュ製造業PMIが49.1と前月(47.9)より改善した事もあり、豪ドル/円は82.37円まで続伸。
- ⑨ 25日、本邦の追加金融緩和観測が根強い中、欧米株の上昇を背景に豪ドル/円は8月21日以来となる83.45円まで上昇した。
- ⑩ 30日、日銀金融政策決定会合が長引き、市場では追加金融緩和期待が高まる中、日銀が総額11兆円の追加金融緩和を発表。これを受けて一旦は円売りが優勢となったが、事前予想(10兆円規模)とあまり変わらない内容であったため急速に円買い戻しが優勢となり、豪ドル/円は急反落した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## AUD / JPY

## 今月のポイント

10月の豪ドル/円相場は79.40円～83.45円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.3%の上昇(豪ドル高・円安)となった。上旬は中国経済の先行きに対する懸念からRBAの追加利下げ観測が優勢となったが、中旬以降に発表された中国の経済指標に改善の兆しが見られた上、本邦の追加金融緩和観測からくる円売り、米国の小売や住宅市場の回復を背景とする株高を背景に、豪ドル/円は上昇した。豪州のインフレ上昇を受けて今月のRBA理事会での金利据え置き予想が浮上した事も、豪ドル相場を支えた模様である。

11月の豪ドル/円相場は、先月に続きRBA理事会と、中国経済の行方が手掛かり材料となりそうだ。今回のRBA理事会について、市場では追加利下げ観測が優勢であるが、ここにきて金利据え置き予想も浮上しており、見方が分かれている。仮に据え置かれる場合は同時に発表される声明文に注目であり、中国経済の先行きに対する不透明感が和らぐようならば、RBAの利下げ打ち止め観測が浮上して豪ドル買いが強まる可能性がある。中国の胡錦濤主席の交代に合わせて大規模な経済対策が打ち出されるかを含め、中国経済の行方が豪ドル/円相場を左右しそうだ。

一方、リスク要因としては、米大統領選と財政の崖や、ギリシャやスペインを始めとする欧州情勢などが挙げられる。これらを不安視して株安が進むようだと、豪ドル/円は7月以降下値を支えている79円台に向けて下押すことも考えられる。(川畑)

(予想レンジ: 79.30～86.20円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

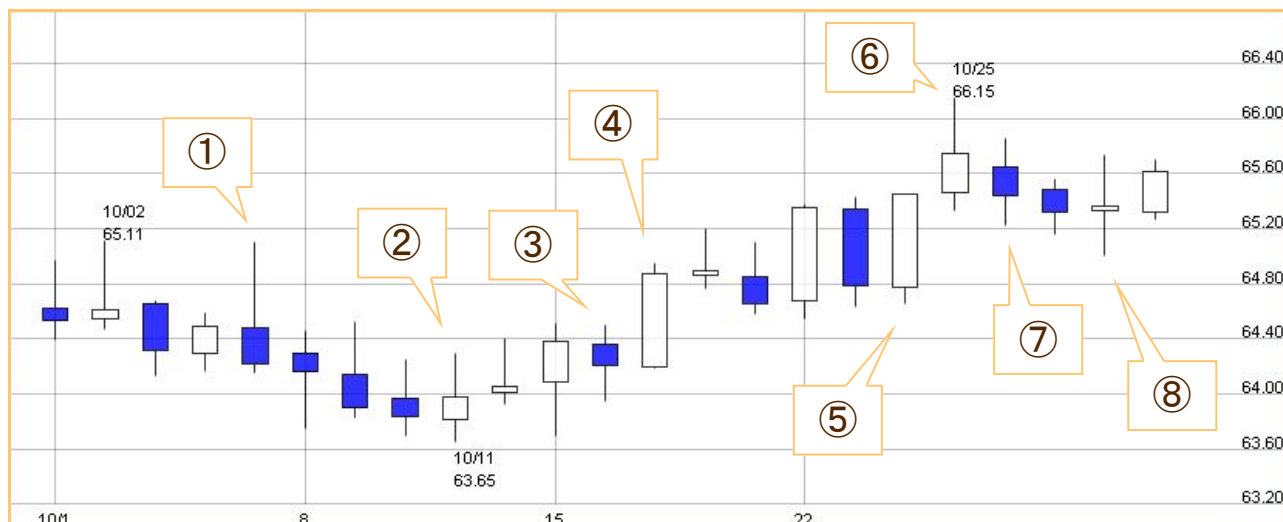
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(木)	第3四半期豪輸入物価指数	11/8(木)	欧州中銀金融政策発表
	10月米ADP全国雇用者数	11/9(金)	RBA四半期金融政策報告
	10月米ISM製造業景況指数		10月中国消費者物価指数
11/2(金)	第3四半期豪生産者物価指数		11月米シガン大消費者信頼感指数・速報値
	10月米雇用統計	11/10(土)	10月中国貿易収支
11/5(月)	9月豪貿易収支	11/12(月)	第3四半期日GDP・一次速報
	9月豪小売売上高		ユーロ圏財務相会合
	10月米ISM非製造業景況指数	11/14(水)	10月米小売売上高
11/6(火)	第3四半期豪住宅価格指数	11/15(木)	11月米ニューヨーク連銀製造業景気指数
	RBAキャッシュターゲット	11/20(水)	RBA議事録
	米大統領選挙		日銀金融政策決定会合(19日～発表)
11/8(木)	9月日貿易収支	11/22(木)	11月HSBCフラッシュ製造業PMI
	10月豪雇用統計	11/29(木)	第3四半期豪民間設備投資

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## NZD/JPY

## NZドル/円 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	64.62	66.15円	63.65円	65.61円



① 5日、米9月雇用統計を好感して時間外のNYダウ平均先物が上昇すると、NZドル/円は一時65.10円まで上昇。しかしその後、NYダウ平均株価が5年ぶり高値を更新後に下げに転じると、64.15円まで反落した。

② 11日、「ソフトバンクが米携帯大手スプリント・ネクステルの買収を検討」との一部報道をきっかけに円売りが強まった。更にその後前原経済相が「日本は米国の同意なしに単独で為替介入を実施できる」との発言も円売りに拍車をかけ、NZドル/円は一段高となった。

③ 16日、第3四半期NZ消費者物価指数が前年同期比+0.8%と、予想(+1.1%)やNZ準備銀行(RBNZ)のインフレ目標(1-3%)を下回った。これを受けてNZドル/円は64.12円まで30銭弱急落したが、売り一巡後は本邦の株高を背景に下げ幅を縮小した。

④ 17日、欧米株の堅調推移や、本邦の追加金融緩和観測の高まりからくる円売りを受け、NZドル/円は一時64.95円まで値を上げた。「日銀が2014年度の物価見通しを下方修正すると共に、追加金融緩和の検討に入る」との一部報道を受けて円売りが強まった事も、上昇を後押しした。

⑤ 24日終盤、RBNZが政策金利の据え置きを発表。声明では「世界経済は依然として脆弱」としたが、市場予想ほどにはハト派に傾いたものにならなかった事を受け、NZドル買いが優勢となった。

⑥ 25日、本邦の追加金融緩和観測が根強い中、前日のNZドル買いの流れを引き継いで一段と上昇。欧米株の上昇も重なると、NZドル/円は4月30日以来となる66.15円の高値を記録した。

⑦ 26日、ウィーラーRBNZ総裁が「必要ならば金利引き下げの余地がある」「すべての基準を満たせば介入する準備がある」と発言。米アップルの決算に対する失望感もあり、NZドル/円は弱含んだ。

⑧ 30日、日銀金融政策決定会合が長引き、市場では追加金融緩和期待が高まる中、日銀が総額11兆円の追加金融緩和を発表。これを受けて一旦は円売りが優勢となったが、事前予想(10兆円規模)とあまり変わらない内容であったため急速に円買い戻しが優勢となり、NZドル/円は急反落した。

## NZD / JPY

## 今月のポイント

10月のNZドル/円相場は63.65円～66.15円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.4%の上昇(NZドル高・円安)となった。上旬は中国経済の先行きに対する懸念からじり安の展開が続いたが、中旬以降に発表された中国の経済指標に改善の兆しが見られた上、本邦の追加金融緩和観測からくる円売り、米国の小売や住宅市場の回復を背景とする株高を背景に、リスク回避の動きが和らぐと、25日には約半年ぶりに66円台まで上昇した。

先月の動きを見ると、豪ドル/円に比較的連動した動きとなったが、共通点としては中国経済の動向が挙げられる。今や中国は世界第2位のGDPを誇る経済大国であるのみならず、NZにとっては豪州に次ぐ貿易相手国である。足下では中国経済の動向がNZドル相場を左右する場面が多々見られる事から、今月も要注意と言えそうだ。

一方、NZ経済を見ると、先月のRBNZの声明文では利下げについての言及は見られなかった事から、中国経済の先行きに対する不透明感が和らぐようだと、カンタベリー地区の震災復興需要と合わせ、市場で予想されているRBNZの利上げ開始時期(2013年後半)が前倒しされる可能性もある。その場合はNZドル高の展開が予想されるが、政府サイドからのNZドル高けん制発言のトーンもまた強まるだろう。

それ以外では、米大統領選と財政の崖や、ギリシャやスペインを始めとする欧州情勢を受けた株価の動向にも注目したい。これらを不安視して株安が進むようだと、リスク回避の動きからNZドル/円に売り圧力が掛かりやすく、要注意と言えそうだ。(川畑)

(予想レンジ:63.20～67.20円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

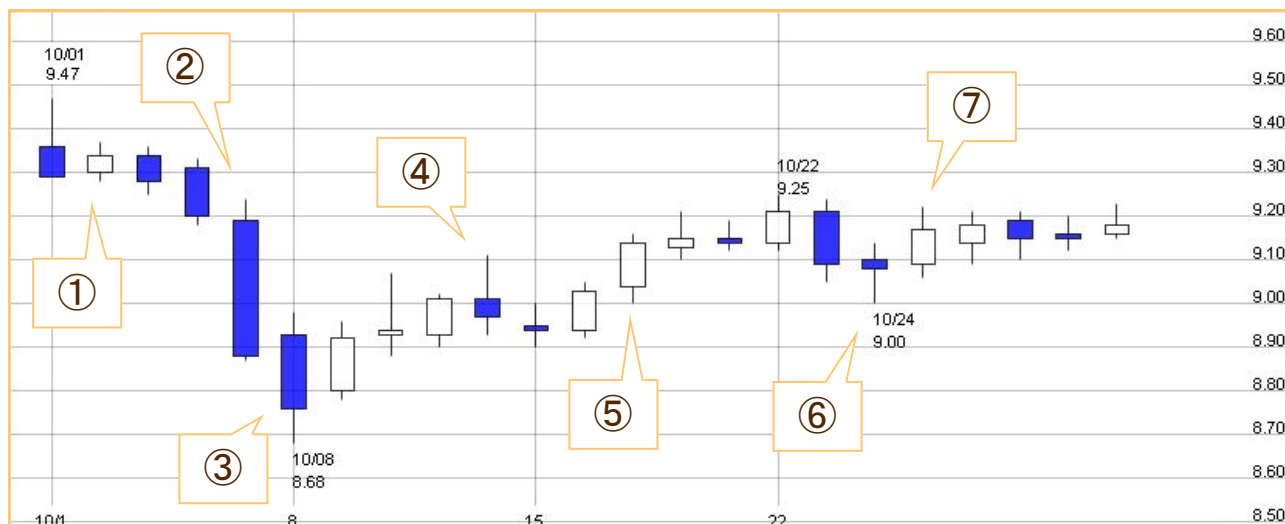
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(木)	10月米ADP全国雇用者数	11/12(月)	第3四半期日GDP・一次速報
	10月米ISM製造業景況指数		ユーロ圏財務相会合
11/2(金)	10月米雇用統計	11/13(火)	第3四半期NZ小売売上高
11/5(月)	10月米ISM非製造業景況指数	11/14(水)	10月米小売売上高
11/6(火)	RBAキャシュターゲット	11/15(木)	11月米ニューヨーク連銀製造業景気指数
	米大統領選挙		10月米消費者物価指数
11/7(水)	第3四半期NZ失業率	11/19(月)	第3四半期NZ生産者物価
11/8(木)	9月日貿易収支	11/20(水)	日銀金融政策決定会合(19日～発表)
	欧州中銀金融政策発表	11/22(木)	11月HSBCフラッシュ製造業PMI
11/9(金)	10月中国消費者物価指数	11/26(月)	10月NZ貿易収支
	11月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	11/29(木)	10月NZ住宅建設許可
11/10(土)	10月中国貿易収支		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

## ZAR/JPY

## ランド/円 10月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	9.36円	9.47円	8.68円	9.18円



- ① 2日、南ア準備銀行(SARB)のマーカス総裁が「9月20日の金融政策委員会では政策金利を据え置いたが、簡単な決定ではなかった」と発言。これをきっかけに同国の追加利下げ観測が台頭してランド/円は値を下げたものの、欧州株高を受けて反発した。
- ② 5日、米9月雇用統計を好感して時間外のNYダウ平均先物が上昇すると、ランド/円は一時9.18円まで値を上げた。しかしその後、NYダウ平均株価が5年ぶり高値を更新後に下げに転じ、原油相場も下落すると、ランド/円は8.87円まで急反落。南ア大手鉱山会社がストライキに参加した労働者12000人の解雇を発表すると、労使間の対立が一層激化した事も、ランド売りに拍車をかけた。
- ③ 8日、上海株や欧州株の下げを背景にリスク回避の動きが強まる中、南ア国内のストの拡大懸念が強まると、ランド/円は2009年2月以来となる8.68円まで急落した。
- ④ 12日、南アフリカでトラック運転手のスト終結が決まった事を好感して、ランド/円は一時9.11円まで上昇。しかし、格付け会社S&Pが同国の格付けを「BBB」へと引き下げた事が嫌気されると、8.93円まで反落した。
- ⑤ 17日、南ア8月実質小売売上高が前年比+6.4%と予想(+4.5%)を上回った事を受け、ランド/円はわずかに買われた。その後、スペイン10年債利回りが低下してリスク回避の動きが後退した事や、一部メディアが日銀の追加金融観測を報じた事で円売りが強まると、引け間に9.16円まで一段高となった。
- ⑥ 24日、南ア9月消費者物価指数が前年比+5.5%と予想(+5.0%)を上回った。しかし、ランド/円は欧州株の下げに反応したため、その後9.00円まで下落した。
- ⑦ 25日、ゴードン南ア財務相が中期予算方針を発表。2013年の同国の国内総生産(GDP)の成長率見通しを前年比3%増、2014年は同3.8%増と予想し、2月時点(3.6%、4.1%)と比べ下方修正した事を嫌気してランド/円が小緩む場面が見られたが、鉱山ストライキ問題への公的支出に上限を設けるとした事や、同国の財政は健全である事を強調すると、ランド/円は値を戻した。

## ZAR/JPY

## 今月のポイント

10月のランド/円相場は8.68円～9.47円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約2.2%の下落(ランド安・円高)となった。序盤は中国経済の先行きに対する懸念に加え、南ア国内でのストが頻発したことで同国のカントリーリスクが意識され、2009年2月以来の安値水準に下落。ただその後、ストが徐々に鎮静化に向かうと、過度のリスク回避的な動きが後退して反発。本邦の追加金融緩和観測からくる円売りや主要国の株高を背景に持ち直すも、未だストが散発的に発生している事や、南アの格下げもあり、豪ドルなど他の資源国通貨と比べ戻りの鈍さが目立った。

今月、南アでは金融政策発表が予定されている。足下のインフレ率低下は落ち着きを見せているが、先月マーカスSARB総裁が利下げを示唆した他、国内のストの影響が国内経済の足を引っ張るようだと、SARBの利下げ観測が優勢となる事も考えられる。利下げの可能性を占うべく、1日の第3四半期失業率や14日の9月実質小売売上高、21日の10月消費者物価指数等の経済指標に加え、ストの行方に注目したい。

一方、中国が世界第2位のGDPの経済大国となった現在、同国経済の行方はランド相場にとって無視できない要因の一つとなっている。その他、引き続き米大統領選の行方や、ギリシャやスペインを始めとする欧州情勢を受けた株価の動向も手掛かり材料となりそうだ。(川畑)

(予想レンジ:8.70～9.90円)

## 今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
11/1(木)	10月米ADP全国雇用者数	11/14(水)	9月南ア小売売上高
	10月米ISM製造業景況指数		10月米小売売上高
11/2(金)	10月米雇用統計	11/15(木)	11月米ニューヨーク連銀製造業景況指数
11/5(月)	10月米ISM非製造業景況指数		10月米消費者物価指数
11/6(火)	米大統領選挙	11/20(火)	日銀金融政策決定会合(19日～発表)
11/8(木)	9月日貿易収支	11/21(水)	10月南ア消費者物価指数
	欧州中銀金融政策発表	11/22(木)	11月HSBCフラッシュ製造業PMI
11/9(金)	10月中国消費者物価指数		SARBオフィシャルキャッシュレート
	11月米シガン大消費者信頼感指数・速報値	11/27(火)	第3四半期南アGDP
11/12(月)	第3四半期日GDP・一次速報	11/29(木)	10月南ア生産者物価指数
	ユーロ圏財務相会合	11/30(金)	10月南ア貿易収支

巻頭の特記事項を必ずお読みください。